

「庭でカモシカに遭遇(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

このカモシカは、登記簿上、明らかに私の土地に侵入してきた。しかし「カモシカ登記簿」では、ここはこの個体の土地(縄張り)なのだろう。自分の家のように悠々堂々と、実にゆっくり過ごしている。



「ニホンカモシカ」 *Capricornis crispus* (ウシ科)

(2ページ目に拡大写真)

警戒心が比較的薄いカモシカといっても、これほどの至近距離で撮影できることは稀だ。私は「連写」で夢中でシャッターを切った。カモシカは、一箇所にじっと立ち尽くす性質がある。俗に「アオの寒立ち」と呼ばれる行動である。動きの速い野生動物が多い中で、撮影の被写体としては誠に都合が良い。カモシカは、灌木の若葉を食べながら、ゆっくり移動していった。



写真は、本白根山中央火口付近で見かけたカモシカである。登山道のすぐ近くまで寄ってきている。こんなに登山者がいるのに、逃げる様子はなかった。



逃げないばかりか、目が合うと、じっと見据えてほとんど微動だにしない。これはどこにいるカモシカでも共通の行動(特徴)のようだ。和名の中に「シカ」の二文字はあるものの、シカ科ではなくウシ科の哺乳類である。顔つきもシカとは似ていない。



カモシカは草食性だが、樹木の葉だけでなく、地上の草も食べる。できればこれからの時期、毎日山荘に現れて「草刈り」をしてくれれば助かるのだが・・・。



